Oita Art and Culture Support Center for Disabilities
Annual Report 2025

企画・発行　おおいた障がい者芸術文化支援センター
公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団

OITA ART AND CULTURE SUPPORT CENTER FOR DISABILITIES

ANNUAL REPORT 2025

おおいた障がい者芸術文化支援センター

令和７年度 事業報告書

はじめに

おおいた障がい者芸術文化支援センターは、令和元年11月の開設から6年が経過しました。

現在、「大分県障がい者計画（第2期）」に基づき、「相談体制の整備」「創造・発表・鑑賞の機会の拡充」「作品等の評価、販売、権利保護等の推進及び交流の促進」「人材育成」「情報収集と情報発信」「関係者の連携協力」の6つの視点で、障がいのある方の芸術文化活動を支援する取組みを進めています。

センターには毎年多くの相談が寄せられていますが、その多くは「創造の機会」や「発表の機会」に関する相談です。

センターでは、「創造」の機会の拡充として、様々な空間で創作活動ができるよう「オープンアトリエ」を中心とした事業を展開しています。障がいがある方もない方も同じ空間で楽しみながら創作を楽しめる「オープンアトリエinOPAM」、福祉事業所等を訪問する「アウトリーチ」のほか、「地域開催」では、日出町においてダンボールアートやランプシェードづくりのワークショップを実施し、好評を博したところです。

また、「発表」の機会の拡充では、大分県立美術館（OPAM）2階のgallery MAPOでの通年の作品展示のほか、11月には「企画展vol.7はばたくつばさ」を開催しました。

企画展は全体を3部構成とし、アトリウムでは、県内在住の10名のアーティストと県外企業等とのコラボレーションの事例を紹介しました。展示室内では、先駆的な取組みで国内外で評価されている滋賀県の「やまなみ工房」と奈良県の「たんぽぽの家」を招聘し、個性あふれる作品群の大規模な展示やアートとケアの視点から取組まれている様々なプロジェクトの紹介を行っていただきました。おかげさまで、12日間で県内外から過去最高となる5,504名が来場され、多くの感動の声が寄せられたところです。

このほか、県内の小学校に障がいのあるアーティストを派遣し交流を図ることで、障がいへの理解を深めるワークショップや、芸術文化活動をサポートする人材を育成するためのセミナーを企画し、障がいのある方が芸術文化活動に参加しやすい社会に向けた環境の整備も行っています。

今年度の企画展では、インスタグラムなどSNSも駆使して広報に努めましたが、まだまだ多くの皆様に知っていただくことが必要だと感じています。事業内容の充実は勿論のこと、障がいのある方々やサポートする皆様、県民の皆様にセンターの情報が適切に届くよう、これまで以上に情報アクセシビリティの向上や情報発信の強化を図ってまいります。

結びに、おおいた障がい者芸術文化支援センターの事業運営にあたり、格別のご支援とご協力を賜りました関係者各位に心から感謝を申し上げます。

おおいた障がい者芸術文化支援センター

おおいた障がい者芸術文化支援センター

（公財）大分県芸術文化スポーツ振興財団

県内に居住する障がいのある方の芸術文化活動を支援することを目的に、令和元年11月に大分県が「おおいた障がい者芸術文化支援センター」を設立しました。
障がいのある方自身やそのご家族、支援者などの相談内容に応じて、障がいのある方が芸術文化活動を楽しむことができる環境や体制を整え、様々な機関や人をつなげてサポートします。大分県において、障がいのある方たちの芸術文化活動の輪が広がり、誰もが自由に表現を楽しみ、生き生きと自分らしく生活できることを目指します。



Oita Art and Culture Support Center for Disabilities Annual Report 2025

令和
7年度

おおいた障がい者芸術文化支援センター 事業報告書

1 相談支援
P03-04
個性や障がい特性に合わせた制作環境づくり、イベントの企画・運営についてなど、障がいのある方の表現活動に関する様々な相談を受け付けています。

2 創造機会の拡充
P 05-10
障がいのある方が地域の人々と共に表現活動を楽しめる場を提供しています。

3 発表機会の拡充
P 11-16
展覧会や舞台公演など、障がいのある方の表現活動を発表する場を提供しています。

4 鑑賞機会の拡充
P 17-18
様々な団体と連携し、障がいのある方が美術館や劇場、ホールを気軽に訪れることができる場を提供しています。

5 人材育成
P 19
障がいのある方の芸術表現を支援し、企画・運営する人材のスキルアップを図ることを目的に、芸術文化や福祉、教育等の分野に携わる人などを対象としたセミナーを開催しています。

6 交流事業
P 20
障がいのあるアーティストが講師となり、県内の学校などでワークショップを行っています。子ども達との交流を通じて、障がいへの理解や表現活動への関心を高めることを目的にしています。

7 情報収集・情報発信
P 21-22
障がいのある方の芸術文化活動に関する調査を行い、新たな人材や作品を発掘しています。ホームページやSNSを通じて、県内で活躍する障がいのある作家の紹介や、県内外のアートイベントの情報発信を行っています。

1 相談支援

概要 主に障がいのある方ご自身やご家族、障がい福祉関係者より、創造機会や発表機会に関する相談が多く寄せられました。ご本人の希望に合わせて、対応可能な範囲で情報提供や助言を行っています。また、多様化する相談に適切に対応するため、研修参加等による職員のスキルの向上を図っています。

ねらい 創造・発表・鑑賞に関する支援や取り組みの方法等について、情報提供や助言を行う相談支援体制を整備し、芸術文化活動を通して障がいのある方がいきいきと暮らせるよう支援します。

令和７年度相談実績

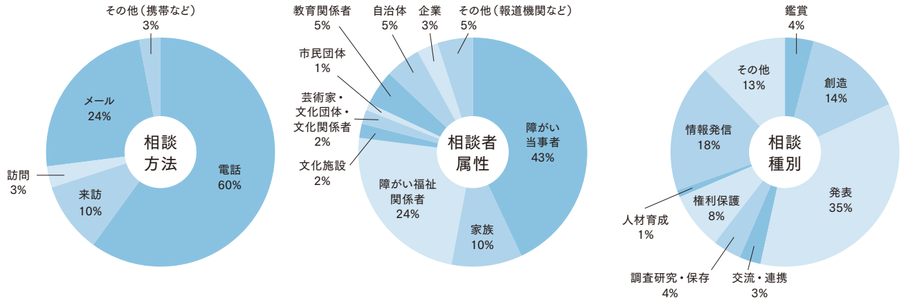
令和8年2月末現在

相談件数 230件　対応回数 241回

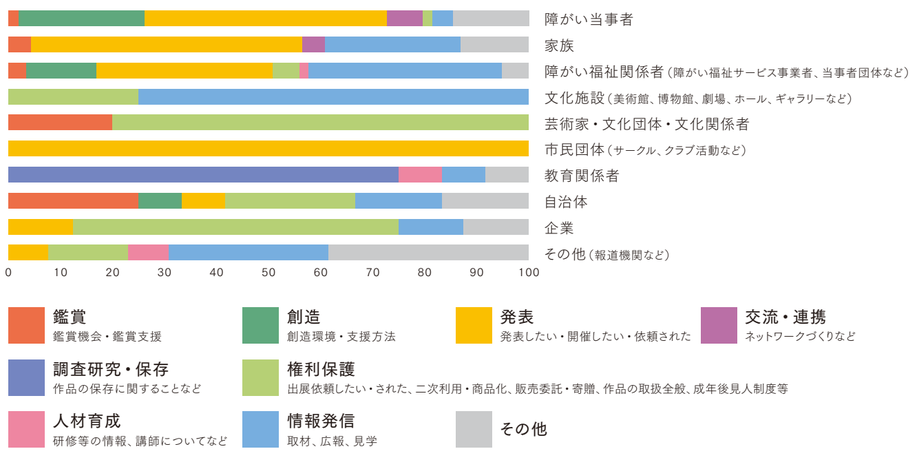
相談窓口

■ **相談方法**　電話、来訪、訪問、メール、FAXなど
■ **受付時間**　9:00～17:00（土・日曜、祝日等を除く）

相談件数の内訳



相談者属性別の相談内容



鑑賞 鑑賞機会・鑑賞支援
創造 創造環境・支援方法
発表 発表したい・開催したい・依頼された
交流・連携 ネットワークづくりなど
調査研究・保存 作品の保存に関することなど
権利保護 出展依頼したい・された、二次利用・商品化、販売委託・寄贈、作品の取扱全般、成年後見人制度等
人材育成 研修等の情報、講師についてなど
情報発信 取材、広報、見学
その他

相談支援事例

CASE 1

相談者　障がい児入所施設
相談種別：二次利用



相談内容

施設の創立記念イベントに合わせ、利用者が描いた絵をもとにチャリティー Tシャツを制作したいと考えている。販売目的に適うようなものにしたいため、デザイナーを紹介してほしい。

▼

支援センターとつながりがあり、障がい者アートにも理解のあるデザイナーをご紹介した。また、デザイナーが所属するB型事業所でのTシャツプリントを行う流れにつながった。

CASE 2

相談者　社会福祉法人
相談種別：発表



相談内容

所属作家たちの作品集を制作中だが、そこで「おおいた障がい者芸術文化支援センター」とのこれまでの関わりについて紹介するページを設けたいので、原稿を作成してもらえないか。また講評をお願いできる方を紹介してほしい。

▼

センターに関するページの原稿を作成し提供するとともに、講評を依頼できる専門家に打診のうえご紹介した。

CASE 3

相談者　当事者
相談種別：創作



相談内容

最近創作を開始し、いつか作品を展示したいが方法がわからない。また、作品制作を通じて人とつながる場を知りたい。さらに表現について、写真をプリントアウトする形の作品を作っているが色合いに納得いかず、どのようにしたらよいか模索したい。

▼

展示経験はないとのことだったため、当センターのオープンアトリエinOPAMに参加することで出展できる、「わたしのパレット展」をご案内した。また、オープンアトリエ内で他の人が制作する様子を見たり交流が生まれることがあることも併せてお伝えした。その後、実際にオープンアトリエに参加し、さまざまな画材で自由に創作できたことで、自分の作風のヒントになったとお喜びの声をいただいた。

CASE 4

相談者　公共施設（ホール）
相談種別：情報発信



相談内容

インクルーシブな公演を企画したいが、障がいのある方のチケット区分表記についてどのような表現が適切か、アドバイスがほしい。

▼

一般的な使用例を紹介することに加え、センターが関わる当事者家族や、センターが属する財団内のホール担当にも意見聴取し、総合的にアドバイスをおこなった。

2 創造機会の拡充

オープンアトリエ
アウトリーチ

概要　福祉施設や特別支援学校などに、絵画・造形・音楽・身体表現などの専門講師を派遣し、アート活動の機会を提供しています。今年度は12ヵ所でアウトリーチを実施し、多くの方と一緒に創作する楽しみを分かち合うことができました。

ねらい　移動手段や障がいの状態により美術館やホールでの芸術文化イベントへの参加が難しい方に、訪問してアート体験を届けることで、アートを楽しみ自己表現する機会を提供しています。また表現活動を支援する方々の学びの場として位置付けています。



Outreach 01

別府市

いろとりどりの羽根をくっつけて
お話「ゆめつくり虫」の大きなちょうちょをつくろう

■ 開催日　2025年7月25日（金）

団体　児童発達支援・放課後等デイサービス
エイトあっぷ 荘園店／別府店

講師　画家・空間ペインター
芳賀健太

Outreach 02

別府市

選んでひろがる
インクアート体験

■ 開催日　2025年7月30日（水）

団体　特定非営利活動法人支援ハウス 豊さん家
こどもデイサービス にこちゃん

講師　ハンドメイド作家・クリエイター
垣内優子





Outreach 03

大分市

ダンスやゲームで
楽しく体を動かそう

■ 開催日　2025年8月22日（金）

団体　児童発達支援事業所・放課後等デイサービス
ダッシュくん。fit 古国府

講師　役者・ミュージカルスタジオ主宰
あべこ



Outreach 04

大分市

ダンスやゲームで
楽しく体を動かそう

■ 開催日　2025年8月25日（月）

団体　児童発達支援・放課後等デイサービス
シンパシー＆エンパシー

講師　役者・ミュージカルスタジオ主宰
あべこ

Outreach 05

由布市

音のひびきをゆったり感じて
童謡・ジャズコンサート

■ 開催日　2025年9月24日（水）

団体　障害者支援施設
大分県のぞみ園

講師　ジャズピアニスト
村田千尋

講師　ボーカル
Uta





Outreach 06

豊後高田市

たくさんのオリジナルはんこで自由にあそぶ♪
けしごむはんこアート

■ 開催日　2025年9月27日（土）

団体　児童デイサービス
虹のわ／ひまわり

講師　消しゴムはんこ作家・役者
あべこ



Outreach 07

国東市

どんなカタチが生まれるでしょう

粘土でオリジナル風鈴づくり

■ 開催日　2025年10月15日（水）

団体　社会福祉法人共生荘　障がい者サポートセンター
三角ベース

講師　アーティスト
トマリアサミ

Outreach 08

大分市

こねこね、楽しい

粘土工作にチャレンジ！

■ 開催日　2025年11月26日（水）

団体　社会福祉法人つわ蕗会　就労移行支援事業所
Fun Like

講師　陶器造形作家
中野マーク周作

講師　陶芸家・イラストレーター
中野伸哉





Outreach 09

佐伯市

わたしたちの紙を使って

手漉き紙のコラージュレター

■ 開催日　2025年12月10日（水）

団体　社会福祉法人 県南福祉会
さつき園 中江

講師　アーティスト
トマリアサミ



Outreach 10

大分市

みんなでつくる、おおきな絵

鳥がみているゆめのまち

■ 開催日　2026年1月7日（水）

団体　発達研究所ななせ合同会社
モデラート／アレグロ

講師　詩人・アーティスト
山脇益美

Outreach 11

大分市

じぶんの名前を好きになる！

ひもでひらがな トートバッグをつくろう

■ 開催日　2026年1月24日（土）

団体　放課後等デイサービス　NPO法人 FOR ALL
そら

講師　詩人・アーティスト
山脇益美





Outreach 12

大分市

石膏テープをつかって

不思議な彫刻をつくろう

■ 開催日　2025年2月17日（火）

団体　児童発達支援事業所
じょうとうベースSevā

講師　大分大学教育学部准教授
村上佑介

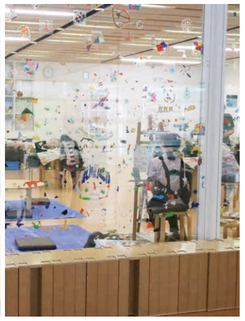
オープンアトリエ in OPAM

概要 月１回OPAM２階のアトリエで創作活動の場を用意しています。画材も色々な種類を揃え、参加者が興味のあるものにチャレンジできる環境を整え、１回２時間の活動を行いました。

ねらい 障がいのある方とない方が、ともに芸術文化活動を楽しみながら創造性を育む場を提供することで、互いの理解を深め、アートに親しむ環境を作り出します。

■ 期間　2025年６月～ 2026年３月（8月・11月はお休み）　■ 時間　午前 10:30～12:30　午後 14:00～16:00
■ 会場　大分県立美術館（OPAM）２階 アトリエ





創作活動アドバイザー

水彩画家
谷口裕子

アーティスト
トマリアサミ

ハンドメイド作家・クリエイター
垣内優子

画家・空間ペインター
芳賀健太

わたしのパレット展

概要 「オープンアトリエ in OPAM」の参加者による作品展です。さまざまな画材を使いながら自由に表現された作品の発表の場となりました。

ねらい アトリエ活動の成果を展示することで、アートを通じた社会参加を実現するとともに、障がいのある方の芸術活動について、社会全体の理解を促します。

■ 期間　2026年３月３日（火）～３月23日（月）　■ 会場　大分銀行宗麟館２階 ソーリンスクエア
■ 協力　株式会社大分銀行



オープンアトリエ 地域開催

オープンアトリエ in ひじ

概要 日出町で、障がいのある方もない方も参加できるワークショップを２回実施しました。自治体と協力することで、地域に広く情報を届けつつ、地域の公共施設等なじみのある場所でアート体験を楽しんでいただくことができました。

ねらい 大分市中心部と比較するとアート参加の機会を得られにくい地域に、障がいのある方とない方がともに地域でアート活動に参加できる機会を作ることを目的としています。また自治体と協力するなかで、今後地域ならではのアート活動が生まれることも視野に入れています。

■ 会場　日出町保健福祉センター　多目的ホール　■ 共催　日出町





Workshop A

アートなダンボール王国！お城をつくろう

■ 開催日　2025年８月６日（水）

講師　アーティスト
トマリアサミ





Workshop B

きらきらランプシェードをつくろう！

■ 開催日　2025年８月20日（水）

講師　大分大学教育学部 教授
廣瀬剛

3 発表機会の拡充

おおいた障がい者芸術文化支援センター企画展 vol.7

はばたくつばさ

概要 県内外において魅力的な芸術文化活動に取り組む個人や施設を大規模に紹介する展覧会です。7回目の今回はテーマを「はばたくつばさ」とし、障がいのある方々の個性や創造性を尊重し、自由な表現活動を支えている「やまなみ工房」（滋賀県）と「たんぽぽの家」（奈良県）所属のアーティストによる作品やプロジェクトの紹介、企業等とコラボレーションをしている大分県内のアーティストの作品等の展示を行いました。

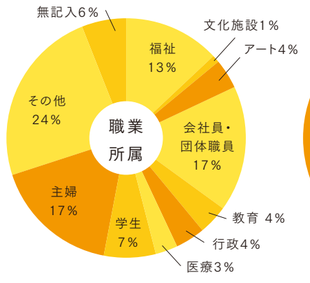
ねらい 県立美術館というアート鑑賞に特化した空間で作品を発表し、創作意欲の向上や生きがいにつなげるとともに、より多くの県民が作品や作家を知る機会をつくります。また、障がいの有無を越えて楽しむことができる県外の先進的な展覧会に触れる機会をつくります。

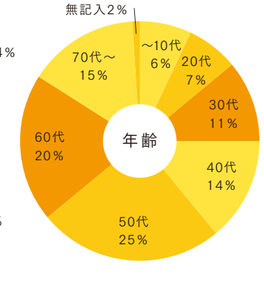
■ **期間**　2025年11月5日（水）～11月16日（日）　■ **会場**　大分県立美術館（OPAM）1階 展示室A、アトリウム　■ **観覧料**　無料
■ **協力**　やまなみ工房、一般財団法人たんぽぽの家、たんぽぽの家アートセンター HANA、Good Job! Center KASHIBA、Able Art Company



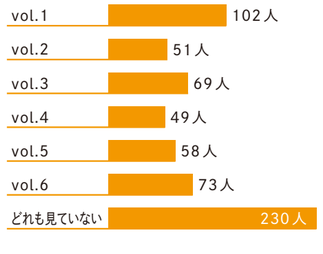
令和7年度企画展実績

- 来 場 者　5,504人
- 出 展 者　大分の作家たち展：10名／やまなみ工房：51名／たんぽぽの家：14名
- 出品点数　大分の作家たち展：20点／やまなみ工房：313点／たんぽぽの家：48点
- 来場者アンケート集計　回答数：490件　　回答率：8.9％





過去に開催した当センターの企画展への来場



はばたくつばさ × 大分の作家

挑戦のカタチ 大分の作家たち展

企業等とのコラボレーションにより社会で多様な役割を担い新たな価値を創出している県内在住アーティスト10名の事例を、作品と商品等を併せて紹介展示しました。









出展アーティスト

甲斐瞳
神田雅光
古城貴博
秦亮太朗
中島眞一
中野マーク周作
中野道人
姫野暁
藤田望人
真澄アキヒロ

コラボレーションした企業

パナソニック（株）EW社
（株）モンベル
大和ハウス工業（株）京都支店
（株）ハーバー研究所　　他

来場者の感想

企業等とのコラボレーション作品全てがよかったです。希望を与えられました。

県内にこんなすごいアーティストがいたことを初めて知りました。もっともっとたくさんの人に観てもらいたいです。

どの作品も作者のエネルギーに満ちていて、それぞれに個性があり見応えがありました。何度も見たいと思いました。

はばたくつばさ

×

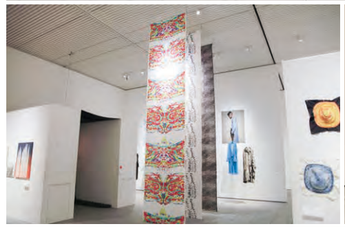
やまなみ工房

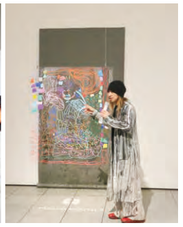
やっぱりぼくにはわからん展2

～ やまなみ工房 施設長のホンネ ～

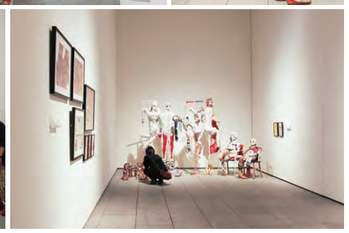
やまなみ工房を利用する51名による、総数2,000点（作品数313点）を超える作品を一堂に展示する、やまなみ工房史上最大規模の展覧会となりました。俳優/映画監督の竹中直人氏をナビゲーターに、施設長 山下完和氏らが作品や創作の舞台裏を対談形式で案内する音声ガイドがとても分かり易いと好評でした。



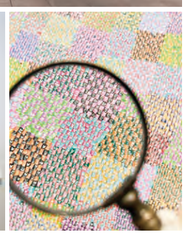












やまなみ工房（滋賀県）

1986年、滋賀県甲賀市において開設されたやまなみ工房には現在は約100名の方が通所し、障がいのあるアーティスト一人ひとりがそれぞれの方法で表現活動に取り組んでいます。個性あふれる作品はこれまで国内外のさまざまな分野において高く評価され、各種展覧会への出展や映画、ファッションなど多種多様なプロジェクトやコラボレーションにより幅広いアートワークを世界に発信しています。敷地内にはアトリエやカフェ、ギャラリーやショップ、ライブハウスやミニシアター、パフォーマンススタジオがあり年間3,000人が訪れます。それぞれの人間的な魅力を生かしたやまなみ工房は一人ひとりのいろんな「大好き」や自分の「得意」が大切にされ、誰もが出会いと空間を楽しむことができる場所です。

空間デザイン・キュレーション

PR-y（株式会社リッシ）

来場者の感想

圧倒的な作品数に驚きました。それぞれ個性的で感性にあふれていて、とても素敵な作品ばかりでした。感動しました。

見て笑顔になる作品もあれば、雰囲気だけで怖い作品もあり、作り手の世界に入り込み楽しむことができました。

とにかく多彩で面白かったです。心が揺り動かされました。展示のキャプションや内容、展示の工夫も素晴らしいと思いました。

はばたくつばさ

×

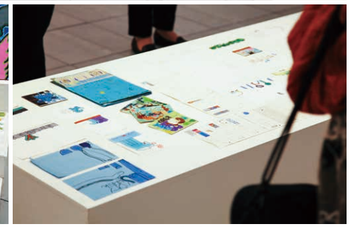
たんぽぽの家

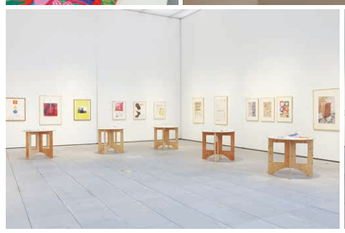
人と人のあいだから うまれるアート

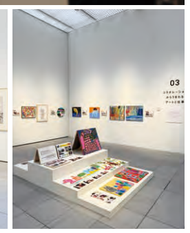
たんぽぽの家が日々取り組んでいるアート活動やプロジェクトは、障がいのある方の個性を活かすだけでなく、人と人のあいだ、関係や対話から生まれています。展覧会では、異分野の協働によるアートや近年の高齢化・障がいの重度化といった課題を表現の機会に繋げるプロジェクトを紹介しました。また今年30年を迎えた市民芸術活動「エイブル・アート・ムーブメント」の軌跡とこれからを展示しました。

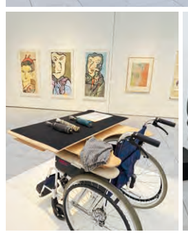


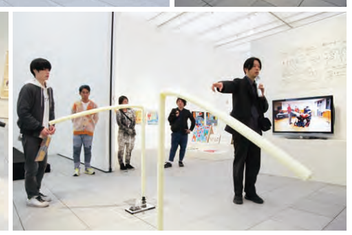












たんぽぽの家（奈良県）

アートとケアの視点から、さまざまな事業を実施している市民団体です。障がいのある人が表現活動を仕事にする「たんぽぽの家アートセンターHANA」、アート・デザイン・ビジネスの分野をこえ、社会に新たな仕事をつくりだす「Good Job！センター香芝」などを運営しています。また、アートと社会の新しい関係をつくる「エイブル・アート・プロジェクト」や、障がいのある人との協働から生まれる新たなはたらきかたを提案する「Good job!プロジェクト」を行っています。

来場者の感想

作家ご本人の感性ももちろん素晴らしいですが、一緒に歩んでおられるスタッフの方々の力もなくてはならないものだなと感動しました。

障がい者アートに関心がありましたが、こんなにも歴史があると知り驚きました。

VRやAIに対して距離を置いてしまいがちですが、人と人をつなぐこともできるのだなと気づきを与えていただきました。

公募型舞台芸術ワークショップ

なみのダンスとMR

概要　［企画展vol.7 はばたくつばさ］の関連企画として、同会場にて、たんぽぽの家が取り組む“Art for Well-being”※1の活動の一環である「なみのダンス」ワークショップを実施しました。
「なみのダンス」は、MRゴーグルを装着し現実世界と仮想世界を融合させた世界の中で、会場内に出現する波の動きを感じながら身体表現を行うものです。今年は計3日間、日ごとに大分県内の異なる対象者をOPAMに迎えて開催しました。最終日の3日目は、公募で集まった参加者による“ミニパフォーマンス”という形で公演をおこないました。

ねらい　障がいの有無にかかわらず、誰もが一緒に創作し、つくり上げた表現を楽しむ場所を提供します。参加者の自己表現の機会となるだけでなく、仲間との絆の中から生まれる作品を共有する喜びも実感していただきます。また、舞台発表を通じて、社会とつながる貴重な体験の場を提供します。

■ 期間　2025年11月14日（金）～ 11月16日（日）　■ 会場　大分県立美術館（OPAM）　展示室A
■ 協力　一般財団法人たんぽぽの家、社会福祉法人わたぼうしの会

※1　Art for Well-being … 心身の状態が変化しても、誰もが表現に触れ、表現し合える社会をつくることを目指すプロジェクトです。









■ 開催日　2025年11月14日（金）

対象　大分県立新生支援学校
小学6年生

講師　たんぽぽの家 アーティスト
水田篤紀
たんぽぽの家 スタッフ
大井卓也

Workshop A

■ 開催日　2025年11月15日（土）

対象　大分県内の福祉施設利用者
放課後等デイサービス 翔の輪

講師　ジャワ舞踊家
佐久間新
たんぽぽの家 アーティスト
水田篤紀

Workshop B

■ 開催日　2025年11月16日（日）

対象　公募で募集

講師　ジャワ舞踊家
佐久間新
たんぽぽの家 アーティスト
水田篤紀

ゲスト　美術家
木村秀和

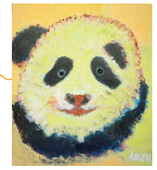
Workshop C

gallery MAPO（マポ）

概要　大分県立美術館（OPAM）2階に展示スペースを設け、芸術文化活動に取り組む障がいのある方の作品を展示しました。

ねらい　県立美術館というアート鑑賞に特化した空間で作品を発表し、創作意欲の向上や生きがいにつなげるとともに、県民が作品に触れる機会をつくります。

藤内和子
「私のワークス展」



■ 会期
2025年5月2日（金）
～ 6月30日（月）

「描きたい」という気持ちを大切に、目に焼きついた動物や人物の姿をさまざまな手法で表現しています。

感想ノートより　動物に対する優しい気持ちが表れていて癒されます。人の表情があたたかくて感動しました。

佐藤省吾
「旅するダンボール」



■ 会期
2025年7月2日（水）
～ 8月31日（日）

細かく刻んだダンボールを、台紙に一つひとつ丁寧に貼り重ねて生まれるモザイク状の作品。さまざまな空間に寄り添いながら独自の世界を展開し続けています。

感想ノートより　丁寧にダンボールを細かく切られていて色遣いも面白く、素晴らしいです。ゴミや煙になるはずのものが感動の種になるなんて！

佐藤龍男
「音楽を聴きながら」



■ 会期
2025年9月2日（火）
～ 10月29日（水）

お気に入りの歌を聴きながらペンやアクリル絵具で描かれた作品。独特な色遣いと世界観が特長です。

感想ノートより　作品を観ていたら音が聞こえて、作品の楽しさが見えてきました。

佐賀太郎
「かさなる色のハーモニー」



■ 会期
2025年10月31日（金）
～ 12月25日（木）

1枚の絵のなかにも画材の重なりから生まれる深みや奥行きを楽しめる絵です。

感想ノートより　色が重ねたことで複雑で素敵な色合いになり、見ていると気持ちが落ち着きます。

安部侑朔
「コミカルに、シリアスに。」



■ 会期
2025年12月27日（土）
～ 2026年2月26日（木）

鮮やかな色彩と力強い筆致で描かれた絶滅危惧種の動物たちの作品とオリジナルキャラクター「ファイター」と自身の日常を記した「ファイター日誌」をご紹介。

感想ノートより　作品を見て涙が出ました。何気ない日常を一つ一つ感じて生きている姿に、自分もそうしようと元気が出ました。

後藤政治
「まさはるのゆめ」



■ 会期
2026年2月28日（土）
～ 4月30日（木）

構図や色遣いに独自の工夫を凝らし、写実的な表現から幻想的な世界観まで幅広く制作しています。

感想ノートより　繊細に描いていて優しさや丸みを感じ、あたたかい気持ちになりました。

4 鑑賞機会の拡充

鑑賞支援つき

新・感・覚 コンサート

概要　iichiko総合文化センターと連携し、障がいのあるなしにかかわらず劇場という非日常を楽しめる、鑑賞支援付きの公演を開催しました。
相撲の神事や興行に含まれる音楽の要素（相撲甚句や櫓太鼓など）をモチーフとした作曲活動をしているアーティストを迎え、舞台上と観客席のコミュニケーションも交えながら楽しく鑑賞するという奇想天外な音楽体験をお楽しみいただきました。

ねらい　障がいがある方が鑑賞する際の情報保障などを行うことで、舞台鑑賞における様々なバリアを取り除き、だれもが参加してともに楽しめる鑑賞環境を目指します。

■ 開催日　2025年7月22日（火）　■ 会場　iichiko総合文化センター　iichiko音の泉ホール　■ 来場者　506人









出演
《作曲・演奏》
日本相撲聞芸術作曲家協議会
JACSHA（ジャクシャ）
鶴見幸代
野村誠
樋山智子

《ヴァイオリン》
筌口和実

演目
毛弓取り甚句　ヴァイオリン、ピアノ
作曲：鶴見幸代

相撲聞序曲　ピアノ連弾
作曲：野村 誠

真砂子ノ儀　任意の楽器と観客の声
作曲：樋山智子

他

鑑賞支援

手話通訳、字幕、要約筆記、
補助犬用簡易トイレ、場内明るめ、
音量小さめ、特別鑑賞室、
点字プログラム、拡大文字プログラム、
座席補助シート、イヤーマフ、
ヒアリングループ席、Ontenna（オンテナ）、
車椅子席

鑑賞支援ワークショップ

概要　鑑賞支援コンサート「新・感・覚コンサート」の出演アーティストとともに福祉施設を訪問し、音のワークショップをおこないました。相撲をテーマにして生まれた音楽という珍しい内容ながら、アーティストと参加者がコミュニケーションをとりながら自然と楽しめる時間になりました。

ねらい　耳で楽曲を聴くと同時に、様々な楽器を使いながら一緒に演奏したり、障がいの状態に配慮しながら四股を踏むなど体の動きも取り入れ、全身で音楽を楽しむ体験を提供しました。外出が困難な方も安心していつもの場所にいながら、新鮮な感動とともに音楽体験をしていただけるワークショップを目指しました。

■ 開催日　2025年7月21日（月・祝）　■ 訪問先　社会福祉法人聖母の騎士会　障害者支援施設　潔き聖母の家







講師
日本相撲聞芸術作曲家協議会
JACSHA（ジャクシャ）
鶴見幸代
野村誠
樋山智子



5 人材育成

人材育成セミナー

概要 障がい福祉サービス事業所の職員や教職員など、障がいのある方の創作活動に関わる方を対象としたセミナーです。

ねらい 障がいのある方の表現活動を支援する人材の育成を図り、ともに学び、情報共有をしあうことで活動の輪を広げます。

表現をひろめるために守る

障がいのある人のアートと著作権



たんぽぽの家が制作したカードゲーム「知財でポン!」を使いながら、人権の視点でアーティストの表現を守るためのさまざまな権利や考え方について学びました。

■ 開催日　2025年11月9日（日）
■ 会　場　大分県立美術館（OPAM）2階 研修室

講師　一般財団法人たんぽぽの家　理事長
岡部太郎

来場者の感想

- 身近な例を挙げて、わかりやすく話していただいてよかったです。
- カードゲームをしながら楽しく学ぶことができました。
- 知的財産権は曖昧な部分が多い分野だからこそ、自分以外の人との対話やリスペクトの気持ちが大切と気づけました。

全ては幸せを感じるために

やまなみ物語



個性あふれる約100名のアーティストたちが集い、国内外で高い評価を得ている「やまなみ工房」の活動を、山下施設長から直接、ご紹介いただきました。

■ 開催日　2025年11月15日（土）
■ 会　場　大分県立美術館（OPAM）2階 研修室

講師　やまなみ工房　施設長
山下完和

来場者の感想

- アートだけではなく日々の支援について考えたり振り返る機会となりました。
- 利用者さんもスタッフも大切にする気持ちが素晴らしい。本当に大切にしたいと思いました。
- やまなみ工房のこれまでの歩みとエピソードを通して感じることができ、利用者の方との向き合い方を考える機会になりました。

6 交流事業

アートを感じるワークショップ

概要 大分県内で活動している障がいのある作家が、県内の小中学校を訪問してワークショップを行いました。今年度は、佐伯市立本匠中学校と大分市立八幡小学校にて1回ずつのワークショップを開催しました。

ねらい
・県内で活動している障がいのあるアーティストと交流することで、子どもたちのアート（表現活動）への関心を高めます。
・アートを通して人と人の出会いの場をつくることで、障がいを理解し、その有無にとらわれない「共にいきる」地域社会の構築を目指します。

粘土工作にチャレンジ!



全校生徒9名を対象としておこなった粘土工作活動。参加した皆さんは、最初は慣れない粘土での形作りに苦戦していましたが、講師のお二人がテーブルを回りながらコメントやアドバイスをしていくと、次第にアイデアがおもしろい形になっていきました。当日は同室で保護者や教職員も粘土にチャレンジし、みんなで豊かな交流の時間を過ごしました。

■ 開催日　2025年7月3日（木）
■ 会　場　佐伯市立本匠中学校

対象　佐伯市立本匠中学校
全学年

講師　陶器造形作家　**中野マーク周作**　陶芸家・イラストレーター　**中野伸哉**

粘土工作にチャレンジ!



3年生24名を対象として粘土工作体験をおこないました。参加した皆さんはマークさんが作った見本作品に目を輝かせ、珍しい手触りを楽しみながら、すぐに粘土をこねたり伸ばしたりしていました。講師のお二人から「いいね」「すごいね」等の言葉をかけられると、嬉しそうな笑顔がこぼれていました。アートを通じて楽しい交流となりました。

■ 開催日　2025年9月19日（金）
■ 会　場　大分市立八幡小学校

対象　大分市立八幡小学校
小学3年生

講師　陶器造形作家　**中野マーク周作**　陶芸家・イラストレーター　**中野伸哉**

7 情報収集・情報発信

調査・発掘

概要　相談支援や障がい福祉施設・学校関係者からの情報提供などを手掛かりに、美術やデザインの専門知識を有する方とともに調査を行い、新たな作家や作品を見出す取組みを行いました。

ねらい　県内在住の魅力的な創作を行う障がいのある方の情報を１人でも多く集め、今後、支援センターの企画展覧会に出展いただいたり第三者に紹介したりするなど、様々な場へ繋げていきます。





令和７年度 調査実績

調査先

- 福祉施設（由布市）　分野：絵画
- 福祉施設（由布市）　分野：絵画・詩
- 特別支援学校（大分市）　分野：絵画
- 個人（別府市）　分野：絵画
- 個人（宇佐市）　分野：絵画

調査員

- 大分大学 名誉教授　久間清喜
- 大分大学教育学部 教授　廣瀬剛
- 陶芸家・イラストレーター　中野伸哉
- 梅本美術研究所主宰　梅本弥生

調査員の感想

Aさんは、絵画作品制作に先行し長く詩を書かれていることが分かりました。詩にはご自分の生い立ちや身近な事柄、日々の想いなどが綴られていて、Aさんの豊かな感受性とまっすぐな表現力が強く印象に残りました。絵画作品は明るく優しいパステル調の色彩と、シンプルで親しみやすいキャラクターたちが遊んでおり、鑑賞者の心を明るくさせます。詩と絵画作品を合わせた作品集や展示に取り組まれると、より両者の良さが引き立つのではないでしょうか。

生徒さんそれぞれが自分の力量で、描きたいものをのびのびと描いている様子がうかがえます。教室での創作現場が、刺激的で良い影響を与え合っているように感じ取れましたので、いろいろなことにチャレンジして、新たな「好きなもの」と出会えると良いと思います。

情報発信

概要　おおいた障がい者芸術文化支援センターの事業を様々な媒体で発信するよう努めています。
また、障がいのある方の発表活動や公募展などの情報を、ホームページやSNS等で発信しています。

ねらい　障がいのある方の芸術文化活動を広く周知し、県民の皆様に理解を深めてもらうことで、障がいのある方の表現活動を通じた社会参加の促進につなげます。

メディア掲載（センター事業関係）

新聞	9件
テレビ（ケーブルTV含む）	6件
雑誌・WEBサイト等	2件

公募展情報発信

ホームページ	20件
Facebook	8件
Instagram	2件

ホームページおよびSNS発信

ホームページ	94件（支援センター事業21件／県内外イベント広報等73件）
Facebook	89件（支援センター事業65件／県内外イベント広報等24件）
Instagram	74件（支援センター事業64件／県内外イベント広報等10件）
Youtube	12件（支援センター事業12件）

▼ホームページ　http://artbrut-oita.com

▼Facebook　おおいた障がい者芸術文化支援センター

▼Instagram　artbrut.oita

▼Youtube　おおいた障がい者芸術文化支援センター

おおいた障がい者芸術文化支援センター

〒870-0029
大分県大分市高砂町２番33号
iichiko総合文化センター４階
（公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団）

Tel：097-533-4505（平日9:00～17:00）
Fax：097-533-4013
E-mail：artbrut-oita@emo.or.jp

◎JR大分駅から徒歩で約10分
◎大分ICから車で約7分
◎駐車場あり（有料）



【表紙写真クレジット】
① はばたくつばさ（やまなみ工房）
② アウトリーチ（エイトあっぷ 荘園店／別府店）
③ オープンアトリエ in OPAM
④ アウトリーチ（シンパシー＆エンパシー）
⑤ アウトリーチ（Fun Like）
⑥ オープンアトリエ in ひじ
⑦ なみのダンスとMR

【企画・発行】　おおいた障がい者芸術文化支援センター ／ 令和８年３月発行
おおいた障がい者芸術文化支援センターは大分県から委託を受け、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団が企画・運営しています。